

セグロカモメ(キアシセグロカモメ)亜種*mongolicus*の九州における冬期渡来状況

籠島恵介

〒856-0817 長崎県大村市古賀島町133-18-2-44

はじめに

セグロカモメ *Larus argentatus* はユーラシア大陸からアメリカ大陸まで広く分布する種で、分類上の論争が今もなされている種である。たとえばセグロカモメの一亜種とされていた亜種 *michahellis* はフランスのビスケー湾の繁殖地で交雑の可能性が否定されたことにより、数亜種と共に別種キアシセグロカモメ *L. cachinnans* にまとめられる可能性が示唆された (Grant 1982)。

その後、これら数亜種をまとめたキアシセグロカモメ *L. cachinnans* の基亜種 *cachinnans* に繁殖地を接する東アジアの亜種 *mongolicus* は、セグロカモメ (日本鳥学会 2000 では *L. a. vegae* とされているが、海外では極東種 *L. vegae vegae* として独立させることが多いので、本論文ではそれを持ちいる) に属するか、キアシセグロカモメに含まれるかが議論されるようになり今日に至っている。幼鳥は形態的には亜種 *cachinnans* 的であるが、発声は亜種 *vegae* 的とも言われている (Kennerly et al. 1994)。最近の 2 つの整書 (Robbison 2000, MacKinnon & Phillipps 2000) でも意を異にしている。暫定的に本亜種を *L. vegae* の亜種 *L. v. mongolicus* として扱いながら、将来的には独立種となる可能性を示唆する声もある (Yesou 2001)。

本亜種は中国北西部から内モンゴルの呼倫湖にかけて繁殖するとされ (MacKinnon & Phillipps 2000)、あるいはハンカ湖、黄海沿岸まで繁殖地がのびているという (Moore 2003)。日本では少数が越冬するとされ (氏原 2000)、インターネット等でもその写真が多数公開されている (氏原 ホームページ <http://larus.hp.infoseek.co.jp/>, King & Carey 2000)。なお本亜種は繁殖地バイカル湖での夏期個体の写真もインターネット等で公開されている (Reid et al. のホームページ <http://www.martinreid.com/mongp02.html>)。

また韓国では少数が黄海沿岸の離島で繁殖するほか、多数の通過 (漢江: Han River で数千羽)、越冬個体 (洛東江: Nak-Don River Estuary で 1-10 羽など) が観察されている (Moore 2003)。九州は朝鮮半島に近く、本亜種が飛来している可能性があることから渡来状況を調べた。

2003年 9月23日 受理

キーワード: 亜種 *cachinnans*, 亜種 *mongolicus*, キアシセグロカモメ, 九州, セグロカモメ
本論文のカラー写真を <http://www.wbsj.org/nature/database/strix/22/kagoshima.html> で
みることができます。

調査方法

経験的に水揚げ量の多い漁港に大型カモメ類が多いことを感じていた筆者は水産統計における水揚げ重量(農林水産省 2000)により,以下の6地点を観察場所を選び,2002年11月~2003年2月に数回ずつ訪れた。また,本亜種は湖沼地帯で繁殖することが多いため,淡水を好むと考え,漁港の近くにカモメ類のいる池があれば確認するようにした。

記録方法としてはデジタルカメラ(オリンパスC-2020)と望遠鏡(コーワTSN-663)を併用し,本亜種と思われる個体を撮影して確認した(撮影倍率:カメラ3倍,望遠鏡対物20倍)。

相浦漁港(33° 12' N, 129° 39' E):佐世保に近い。大型カモメ類,約100~200羽が確認された。

新長崎漁港(32° 49' N, 129° 46' E):かなり近くから観察できる。大型カモメ類約400~1,000羽が確認された。

博多漁港(33° 36' N, 130° 24' E):一日中活発にカモメ類が入れ替わる。大型カモメ類約400羽以上が確認された。

大濠公園(33° 35' N, 130° 22' E):博多漁港から1km程離れた直径1km程の淡水池。人工的に整備され,ヨシなどの水生植物はほとんどない。

松浦漁港(33° 21' N, 129° 46' E):調川(つきのかわ)という最大の港にカモメ類約800羽が観察された。近くの河口にも数百羽のカモメ類が確認された。ウミネコ *L. crassirostris* の比率が他港より高かった。

唐津漁港(33° 28' N, 129° 58' E):合計約600羽のカモメ類が漁港と松浦川河口を中心に生息していた。観察しづらい場所に分散している個体が多かった。

大濠公園を除く上記の漁港ではのべ1km以上の岸壁と防波堤があり,廃棄された魚や漁船から出る残渣物を採食するカモメ類,大型サギ類,トビ *Milvus migrans*, カラス類が休息していた。

亜種 *cachinnans* の第1回目冬羽はその成鳥と比べて識別しやすいとされ(Bakker et al. 2000), 亜種 *mongolicus* もその傾向があると思われた。その結果として観察は第1回冬羽が中心となった。亜種セグロカモメ *L. v. vegae* との識別点(氏原 2000, 2001, Kennerly et al. 1994)としては,

- (1) 全体的に白っぽく,肩羽にくっきりとした黒褐色斑がある。
 - (2) 初列風切は黒い。白色羽先縁がある(ものが多い)。
 - (3) 三列風切は白い部分が多い傾向があるが,個体差が大きい。
 - (4) 雨覆の模様は細かくコントラストがある。
 - (5) 尾羽の黒帯が狭い。
 - (6) 飛行型を上から見て内側初列風切が白い(セグロカモメでもある程度存在する)。
- があげられるので,その点に注意して観察を行なった。



図 1. 亜種 *mongolicus* の第 1 回冬羽, 博多漁港(2002 年 12 月 19 日)

Fig. 1. 1st winter of *Larus vegae mongolicus* (*L. cachinnans mongolicus*), at Hakata fishery port on Dec. 19, 2002.

結 果

福岡県の博多漁港および大濠公園で亜種 *mongolicus* と思われる個体を確認した(図 1, 2). また, 本亜種と思われるが, 若干検討すべき点を残し, 断定することのできなかった第 1 回冬羽個体を博多漁港(3羽/2回), 松浦漁港(2羽/2回), 相浦漁港(3羽/8回), 長崎新漁港(4羽/8回)確認した(延べ観察羽数/訪問回数). この観察羽数は同一個体を含む可能性がある.

博多漁港で2002年12月19日(曇)に観察した個体(図 1)は以下のような形態的特徴を有していた.

大きさ:セグロカモメと同大

嘴 : 全体的に黒く根本が淡色だった.

頭 : 白く, うなじにかけて細かい斑があった.

うなじ: 白を基調として黒い細い斑があった.

目 : 黒色のビーズ様だった

腹部 : 白色

肩羽 : 幼羽から第 1 回目冬羽に換羽を終えフレッシュで, 雨覆と比較して摩耗していなかった. 羽軸とサブターミナルラインで形成されるイカリ型の模様が白地にコントラストをつくっていた.

雨覆 : 全体として白く, 細かい黒い模様とコントラストになっていた. 先端はすり切れてぎざぎざになっていた.

初列風切: 黒い. 羽先にすり切れがあるが細い白縁が残っていた.

三列風切: 茶黒の地に白い楔状が切れ込んで格子状の模様. 先端はすり切れていた.

尾羽 : 先端の黒帯が 1/3 と狭かった.

翼の裏: 不明

足 : 肉色(写真なし)



図2. 亜種*mongolicus*の第1回冬羽, 大濠公園(2002年12月19日)

Fig. 2. 1st winter of *L. v.(c.) mongolicus*, at Ohori-park in Fukuoka on Dec. 19 2002.

また大濠公園で2002年12月19日(曇)に観察した個体(図2)は以下のような形態的特徴を有していた。

大きさ:セグロカモメ同大, もしくはやや小さかった。

嘴 :根本は肉色で先端1/3が黒く, 先端1cmが白かった。

頭 :全体的に白く微細な斑があった。

うなじ:白を基調として黒く細かい斑があった。

目 :黒色のビーズ様だった。

腹部 :全体的に白く, 細かい黒点があった。

肩羽 :第1回目冬羽に換羽を終えて白地に黒のコントラスト模様。羽軸は黒くなかった。

雨覆 :博多漁港で観察された個体より紋様が細かく, コントラストがあった。

初列風切:黒く, 羽先に細い白縁があった。

三列風切:焦げ茶～黒の格子状模様で白い部分が多い。先端はすり切れていた。

尾羽 :黒帯が尾の1/2弱と狭く, 上尾筒および腰の白とのコントラストがあった。先端に白縁があった。

翼の裏:下雨覆に細かい縞があり, 全体として白くみえた。

足 :肉色。やや短かった。

両個体とも第一印象として全体的に白っぽいのが, 初列風切が黒いためワシカモメ *L. glaucescens*, シロカモメ *L. hyperboreus*, オオセグロカモメ *L. schistisagus* ではない。

セグロカモメ, オオセグロカモメの幼鳥の多くは換羽から数か月経つと摩耗と脱色により全体的に

白っぽくなっていく。この2個体の肩羽は白が強いものの、黒い模様とのコントラストがあり、換羽していないと思われる大中雨覆の羽先のすり切れの進行をと比較して換羽してからあまり日が経っていないフレッシュな羽色であった。同ステージ同時期の亜種セグロカモメでは肩羽の換羽を完了していない個体の方が多い。

イカリ型の独特の模様も同ステージの亜種セグロカモメにほとんど見られない特徴を有している。大濠個体については、羽軸が淡色でイカリ型を形成していないが、コントラストが強く、バリエーションの1つと考えられる。

大濠個体の体型は嘴が短く頭が丸みを帯びている。Moore (2003) は本亜種のバリエーションとしてこのような個体もあるという。

三列風切・尾帯なども本亜種の特徴を有している。大濠個体は翼下面が顕著に白く、亜種 *mongolicus* と *cachinnans* に共通する特徴と思われる。

また、本亜種の繁殖地の西に棲息する亜種 *cachinnans* によく似るとされるが (Kennerley et al. 1994), 嘴が比較的細長く下嘴角がなく、前頭部の傾斜が浅い (Bakker et al. 2000) とされ、この点を多くの写真 (Offereinsホームページ <http://www.xs4all.nl/~calidris/gullindex.html>, Bakker et al. 2000) で比較すると、この2個体は亜種 *cachinnans* とは考えにくい。

以上の観察と亜種 *mongolicus* の繁殖地が日本に近いことから、図 1, 2 のカモメ類 2 個体は本亜種である可能性が極めて高い。

考 察

今回写真で取り上げた個体は、亜種 *mongolicus* のうち、亜種セグロカモメおよび亜種 *cachinnans* ではないことがわかりやすいタイプであり、退色・すり切れの結果以外にも羽色のバリエーションがあることを感じた。孤立した湖沼・島で繁殖するグループの集合体である本亜種の特有の現象なのかもしれない。

第1回冬羽に限っても、同亜種の傾向を持つ個体は長崎～福岡の集団越冬地では決して珍しくはなかった。その多くは本亜種である可能性が高いように思われる。

成鳥等を含めた渡来数はさらに多いと考えるが、詳細は不明である。多くの人が観察することで、バリエーションの把握および識別点の整理、分類学上の進歩を期待したい。

氏原巨雄氏には識別につき貴重な助言を頂いた。ここに御礼申し上げる。

引用文献

- Bakker, T. Offereins, R. & Winter, R. 2000. Caspian Gull identification gallery. *Birding World*. 13(2): 62-74.
- Grant, P.J. 1982. *Gulls a guide to identification*, T & AD Poyser, Staffordshire.

- Kennerley, P.R., Hoogendoorn, W. & Chalmer, M.L. 1994. Identification and systematics of large white-headed gulls in Hong Kong. *Hong Kong Bird Report* 1994: 127-154
- King, J.R. & Carey, G. 2000. Gulls in Japan. *Birding World* 13(4): 161.
- MacKinnon, J. & Phillipps, K. 2000. *A Field Guide to the Birds of China*. Oxford University Press, New York.
- Moores, N. 2003. A consideration of "the Herring gull Assemblage" in South Korea. <http://www.wbkenglish.com/lwhgid.asp>
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録第 6 版. 日本鳥学会, 帯広市.
- 農林水産省. 2000. 平成12年水産物流統計年報. 農林水産省統計情報部, 東京.
- Robbison, C. 2000. *A field guide to the Birds of south-east Asia*. New Holland Publishers Ltd., London.
- 氏原巨雄・氏原道昭. 2000. カモメ識別ハンドブック. 文一総合出版, 東京.
- 氏原巨雄・氏原道昭. 2001. カモメ観察の楽しみ. *Birder* 15(1): 8-17.
- Yésou, P. 2001. Phenotypic variation and systematics of Mongolicus Gull. *Dutch Birding* 23:65-82

Wintering *Larus vegae (cachinnans) mongolicus* in Kyushu island

Keisuke Kagoshima

133-18-2-44 Kogashima Ohmura-city Nagasaki, Japan

In Dec. 19 2002, two individuals believed to be Yellow-Legged Gull *Larus cachinnans (vegae) mongolicus* were observed at Hakata-fishery port and Ohhori-park in Fukuoka prefecture western Japan. I compared with other gulls and concluded them to be spp. *mongolicus*. In addition, my tentative theory is that this spp. birds regularly visit in small numbers to Kyushu island, Japan and are not so rare in winter.

Key words: Kyushu, *Larus cachinnans mongolicus*, *Larus vegae mongolicus*, *Yellow legged gull*